

【創作投稿コーナー】しよしよ

<贈る言葉> 山形 俊男 (S39M)

真の夫婦に向けて！ 【餞(はなむけ)の言葉】

まず、最初に断って置きたい事が三つ有ります。

一つ目は、現代カップルには『古い』と笑われるかも知れませんが、しかし私はこの餞(はなむけ)の言葉は、日本人には忘れてはならない事と考え、敢えて申し上げたいのです。

二つ目は、新郎のお父さんが過去の披露宴で聞いた事があつたら、笑って聞き流して下さい。

三つ目は、我々夫婦は自慢出来るカップルでは有りません。餞の言葉を申し上げるに誠に僣越ですが、折角の機会(両家顔見世の披露宴試食会)なのでお許し願いたい。

二十代の君たち二人には、愛だけが永遠に続くと思っただろう。しかしその愛は次第に色褪せて来る。三十代になると『努力』しないと愛は続かない。四十代の夫婦は、努力するエネルギーも無くなるから、お互いに『我慢』するしかしょうが無い。五十代は我慢する力も無くなるから、『諦め』るよりしょうが無い。そして六十代になってやっと二人に『愛の花』が咲くのです。要するに、『諦め』がベースにあって、その上に『我慢』が有る。そして我慢の上に『努力』があって、初めて二人の間に『愛の花』が咲き、感謝の気持ちが生まれて来るのです。ここで言っている『諦め』、『我慢』、『努力』のキーワードについて、私なりに解説したい。

最初の『諦め』は、二人は御縁があつて来月に挙式する。しかし人生は長い。途中素敵な人に出会うかも知れない。本当にこの人で『良かったのかなア〜』と思う迷う時が出て来る。

でも、あなた方は生まれる前から結婚する運命に有って、赤い糸で結ばれていたと思つて、きっぱり『諦め』なさい。次に『我慢』ですが、欧州の諺に『結婚する前は、両目をよく見開いて相手の悪い処をよく見なさい。そして結婚したら逆に相手のよい処を見て褒め称えなさい。悪い処はなるべく見ない様にして片目を閉じヨ!』とあります。些細な処は出来るだけ『我慢』する事が、『真の夫婦』になるのに、大切なキーワードです。

最後の『努力』です。ここで言う『努力』とは、“嬉しい時”“楽しい時”“悲しい時”“辛い時”“悩んでいる時”それ等を共有して、嘘偽りや、隠し事が無く、共に支え合つて、愛を育んで行く事が『努力』なんです。そうすると、二人の間に『愛の花』が咲き、相手に対して『感謝の気持ち』が湧いて来るのです。

共に白髪が生えるまで、寄り添つて添え上げて欲しい。そうすると二人の間に、大輪の『愛の花』が咲きほこります。更に叶うならば、今度生まれて来る時、“もう一度貴方(貴女)と結婚したい”と言ひ合えるような間柄になって貰いたい。

これが新婦の父から二人に贈る餞(はなむけ)の言葉です。ご清聴ありがとうございました。

【餞(はなむけ)の言葉】

(補足説明)

娘へ： 父です

先日話した餞(はなむけ)の言葉の中で説明不足が有りました。それを以下に補足します。

私が言いたかつたのは、“隠し事の無い”の言葉に秘められている中味の事です。

真の夫婦とは、自分が抱えている秘密の箱(パンドラ)に詰まっている汚い面を公開して、裸の心を見せ合う事から始まるのです。

パンドラの中には、他人に隠しておきたい『自分の秘密』『身内の秘密』『親戚の秘密』等が一杯詰まっています。それ等をつつみ隠さず、さらけ出し合つてこそ、真の夫婦になって行くものなのです。よく理想の夫婦は『愛し合い』『信頼し合い』『理解し合い』『協力し合い』『尊敬し合う』ものだと言われています。これは上手く行っている時は凄く良いが、一旦つまずくと行き詰まってしまう危険性を孕(はら)んでいます。間違つても、この様な表面上プラスで繋(つな)がっている夫婦にはならない様に注意して下さい。結婚がもう目の前に迫っています。体調には充分に気を付けてお過ごし下さい。

<短歌> 嵯峨 良平 (S43E)

菜の花の
間(ま)から面(つら)出す
三毛猫や
春の光に 君も喜ぶ



<螺旋階段>特に意味もなく・・・
(船木一美・S48M)

